

# 国勢調査2020

## 令和2年国勢調査 従業地・通学地による人口・就業状態等集計結果 (大阪府)

—令和2(2020)年10月1日現在—



公表日：令和4年8月31日

大阪府総務部統計課

## 目 次

1	従業地・通学地別人口	1
2	流入・流出人口	6
3	昼間人口、昼夜間人口比率	10
4	常住地による就業者	12

従業地・通学地による人口・就業状態等集計は、全ての調査票を用いて、従業地・通学地による人口の構成や現在住んでいる市区町村と従業地・通学地の市区町村との関係などを集計した結果です。

## <利用上の注意>

- 本文及び図表中の数値は、表章単位未満で四捨五入しているため、合計と内訳の計は必ずしも一致しません。
- 割合は、特に注記のない限り、分母から「不詳」を除いて、又は不詳補完値により算出しています。

### 【不詳補完値について】

総務省統計局は、利用者の利便性向上を図るため、主な項目の集計結果(原数値)に含まれる「不詳」を「不詳」以外のデータの構成比に応じた按分等によって補完した数値(不詳補完値)を算出し、これを表章した統計表を参考表として提供しています。

この冊子では、「従業地・通学地別人口」、「昼間人口、昼夜間人口比率」については不詳補完値を、5年前との比較においては平成27年国勢調査を同様の方法で遡及集計した結果を用いています。ただし、年齢別で表章しているものについては、不詳補完値がないため、集計結果(原数値)を用いています。

不詳補完値の算出方法については、総務省統計局『令和2年国勢調査 従業地・通学地による人口・就業状態等集計結果 結果の概要』20ページを参照してください。

<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka.html>

なお、大阪府の集計結果(原数値)は、次のとおりです。

### 労働力状態別人口

労働力状態	人口(人)	
	平成27年	令和2年
総数	8,839,469	8,837,685
就業者	3,777,668	3,635,403
通学者	1,055,471	939,777
従業も通学もしていない	3,086,759	2,674,581
労働力状態「不詳」	919,571	1,587,924

### 従業地・通学地別人口

従業地・通学地	人口(人)	
	平成27年	令和2年
常住地による人口(夜間人口)	8,839,469	8,837,685
従業も通学もしていない	3,086,759	2,674,581
自市区町村	2,053,842	1,956,248
自宅	269,185	268,811
自宅外	1,784,657	1,687,437
他市区町村	2,414,297	2,346,116
府内	2,096,788	2,034,510
他県	283,107	257,988
従業・通学市区町村「不詳・外国」	34,402	53,618
従業地・通学地「不詳」	1,284,571	1,860,740

## <用語の解説>

### ・従業地・通学地

就業者が仕事をしている場所又は通学者が通学している学校の場所をいい、次のとおり区分している。

外勤の職員、運転手などのように雇われて戸外で仕事をしている人については、所属している事業所のある市区町村を、船の乗組員(雇用者)については、その船が主な根拠地としている港のある市区町村を、それぞれ従業地としている。

区 分	内 容
自市区町村	従業地・通学地が現在住んでいる市区町村と同一の市区町村の者
自宅	従業地が自宅の者
自宅外	従業地・通学地が「自宅」以外の者
他市区町村	従業地・通学地が現在住んでいる市区町村以外の者
府内	従業地・通学地が大阪府内の他市町村の者 大阪市、堺市に住んでいる者のうち、従業地・通学地が自市内の他区の者
他県	従業地・通学地が他の都道府県の者
従業・通学市区町村「不詳・外国」	従業地・通学地が現在住んでいる市区町村以外であるが、市区町村名が不詳の者又は外国の者
従業地・通学地「不詳」	従業地・通学地が不詳の者

### ・夜間人口(常住地による人口)

調査時(令和2年10月1日)に調査の地域に常住している者をいう。

### ・昼間人口(従業地・通学地による人口)

当該集計の結果を用いて次の式により算出される。

夜間勤務及び夜間通学の者も昼間人口に含まれているが、買い物客や観光客などは含まれていない。

$$A \text{市の昼間人口} = A \text{市の夜間人口} - A \text{市からの流出人口}^{\text{注1}} + A \text{市への流入人口}^{\text{注2}}$$

注1) A市からA市以外への通勤・通学者数

注2) A市以外からA市への通勤・通学者数

### ・昼夜間人口比率

当該集計の結果を用いて次の式により算出される。100を超えると昼間人口が夜間人口を上回っている。

$$A \text{市の昼夜間人口比率} = (A \text{市の昼間人口} / A \text{市の夜間人口}) \times 100$$

### ・その他の用語

『令和2年国勢調査 調査結果の利用案内—ユーザーズガイド—』を参照されたい。

<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka/sankou.html>

# 1 従業地・通学地別人口

従業・通学する者の割合は上昇、従業も通学もしていない者の割合は低下

大阪府の人口(883万7,685人)を従業地・通学地別にみると、「自市区町村で従業・通学」が250万2,011人(人口に占める割合28.3%)、「他市区町村で従業・通学」が293万4,414人(同33.2%)、「従業も通学もしていない」が340万1,260人(同38.5%)となっている。

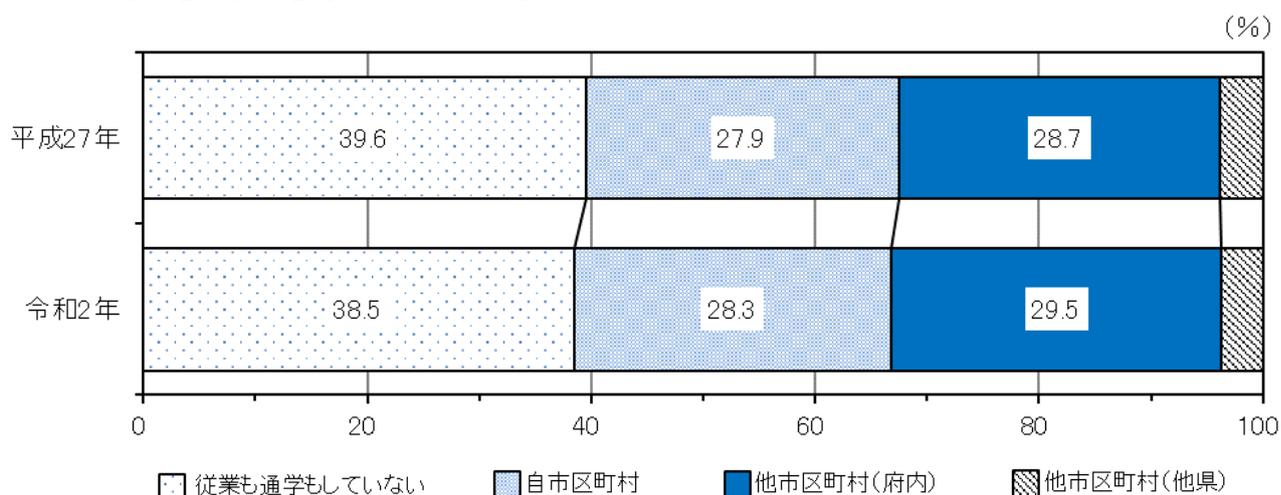
人口に占める割合を前回調査(平成27年)と比較すると、「自市区町村で従業・通学」が0.4ポイント、「他市区町村で従業・通学」が0.7ポイント、それぞれ上昇し、一方、「従業も通学もしていない」は1.1ポイント低下している。

表 1-1 従業地・通学地別人口の推移

従業地・通学地	実 数 (人)		割 合 (%)	
	平成27年	令和2年	平成27年	令和2年
総数	8,839,469	8,837,685	100.0	100.0
従業も通学もしていない	3,498,133	3,401,260	39.6	38.5
自市区町村で従業・通学	2,465,223	2,502,011	27.9	28.3
自宅	321,192	336,344	3.6	3.8
自宅外	2,144,031	2,165,667	24.3	24.5
他市区町村で従業・通学	2,876,113	2,934,414	32.5	33.2
府内	2,539,277	2,607,839	28.7	29.5
他県	336,836	326,575	3.8	3.7

注) 不詳補完値による。

図 1-1 従業地・通学地別人口の割合の推移



## 就業者の約6割が他市区町村で従業

就業者を従業地別にみると、「自市区町村で従業」が40.9%、「他市区町村で従業」が59.1%となっている。

男女別にみると、男性は「自市区町村で従業」が34.9%、「他市区町村で従業」が65.1%、女性は「自市区町村で従業」が48.2%、「他市区町村で従業」が51.8%となっている。

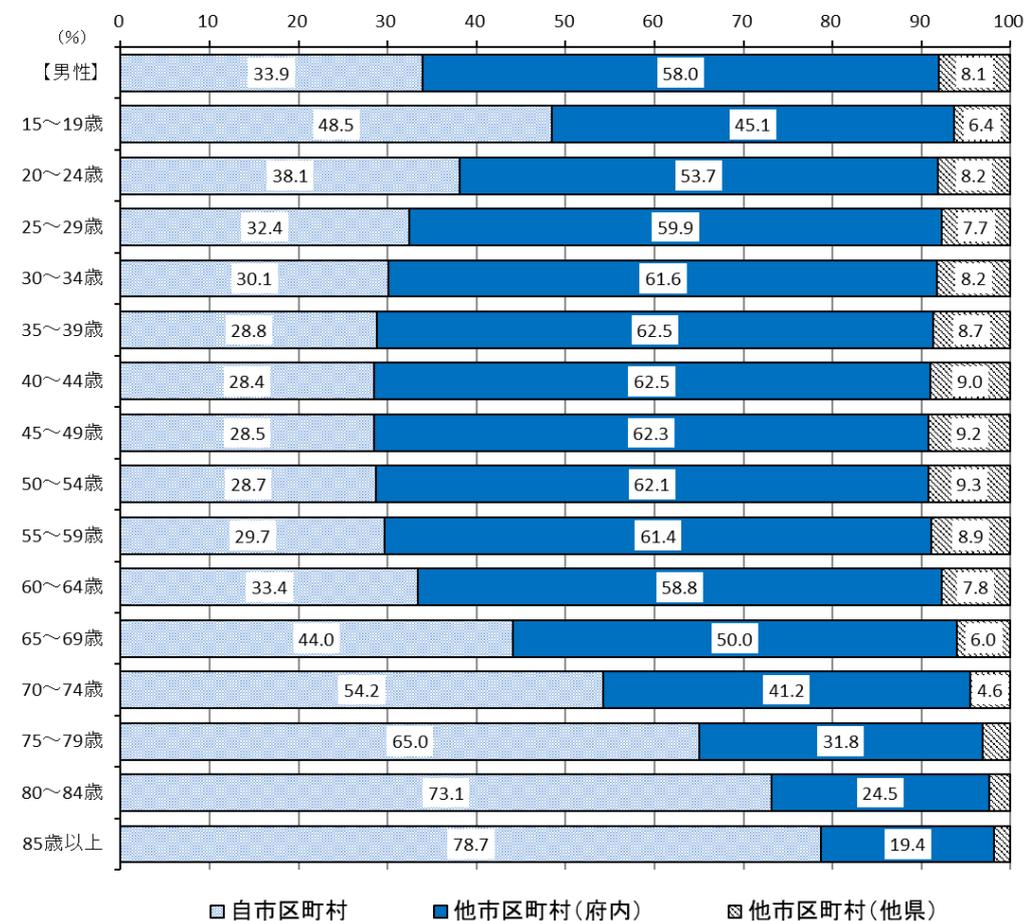
15歳以上の就業者を男女別、5歳階級別にみると、男性は20～64歳で、女性は20～34歳で、6割以上の者が他市区町村で従業している。

表 1-2 男女別、従業地別就業者数

区 分	就業者数	自市区町村で従業			他市区町村で従業			
		自宅	自宅外	府内	他県			
実数 (人)	総数	4,369,302	1,786,983	336,344	1,450,639	2,582,319	2,318,835	263,484
	男	2,393,593	835,314	190,958	644,356	1,558,279	1,371,930	186,349
	女	1,975,709	951,669	145,386	806,283	1,024,040	946,905	77,135
割合 (%)	総数	100.0	40.9	7.7	33.2	59.1	53.1	6.0
	男	100.0	34.9	8.0	26.9	65.1	57.3	7.8
	女	100.0	48.2	7.4	40.8	51.8	47.9	3.9

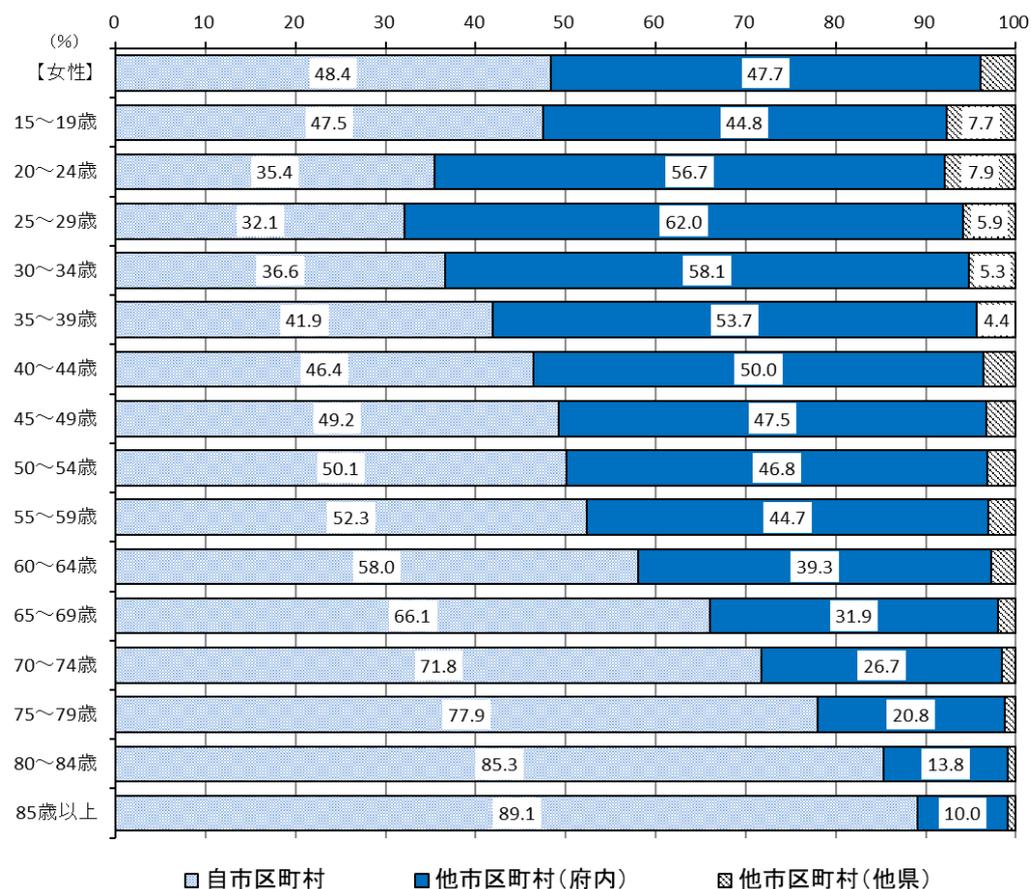
注) 不詳補完値による。

図 1-2-(1) 年齢(5歳階級)別、従業地別15歳以上男性就業者の割合



注) 各年齢階層の総数(従業地「不詳」を控除)における「他市区町村で従業」の構成比を「府内」及び「他県」で按分

図 1-2-(2) 年齢(5歳階級)別、従業地別 15歳以上女性就業者の割合



注) 各年齢階層の総数(従業地「不詳」を控除)における「他市区町村で従業」の構成比を「府内」及び「他県」で按分

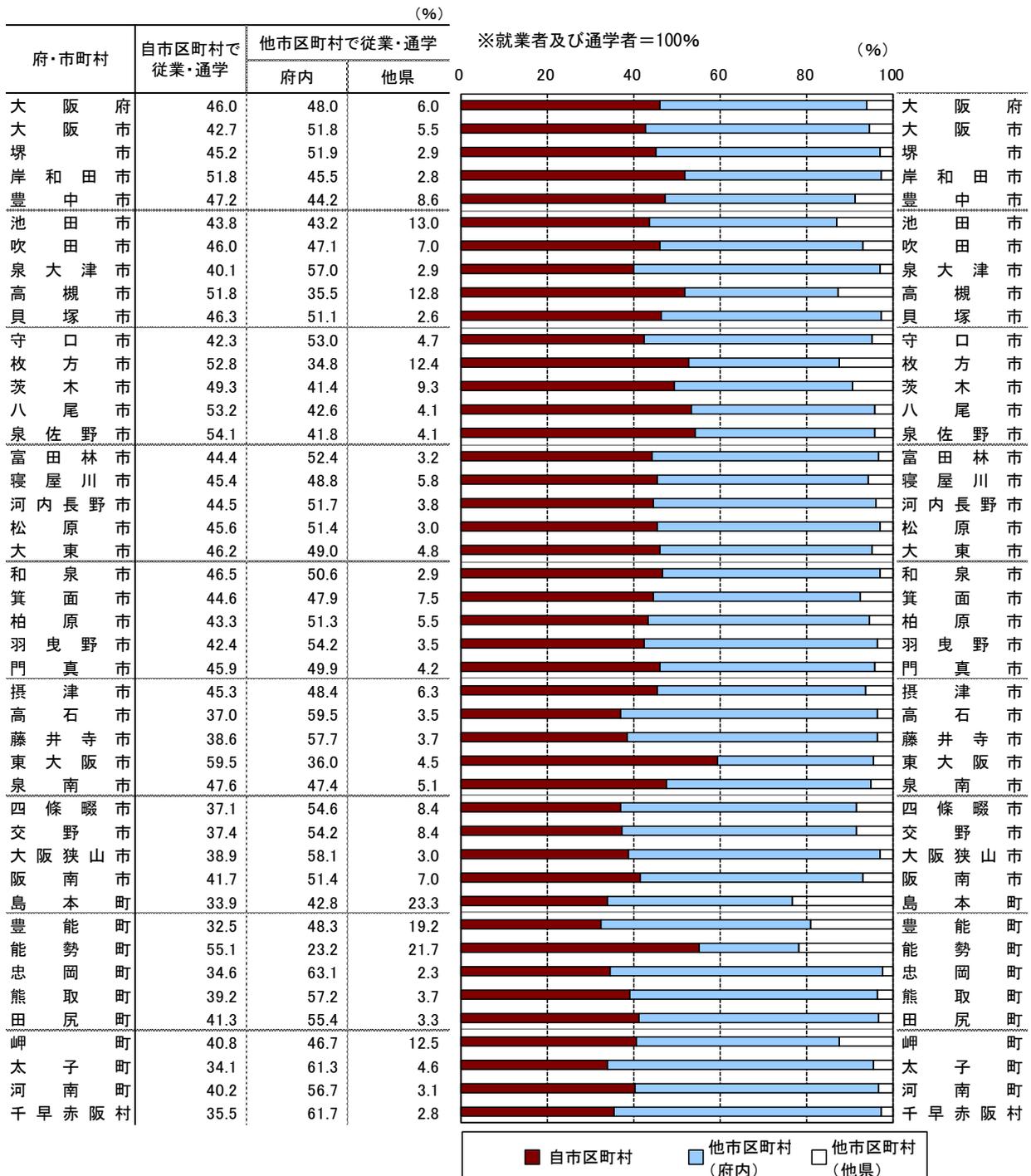
自市区町村で従業・通学する割合が最も高いのは東大阪市で約6割

就業者及び通学者の従業地・通学地別の割合を市町村別にみると、「自市区町村で従業・通学」は東大阪市が59.5%と最も高く、次いで能勢町が55.1%、泉佐野市が54.1%となっている。

「府内他市区町村で従業・通学」は忠岡町が63.1%と最も高く、次いで千早赤阪村が61.7%、太子町が61.3%となっている。

「他県で従業・通学」は島本町が23.3%と最も高く、次いで能勢町が21.7%、豊能町が19.2%となっている。

図1-3 市町村別、従業地・通学地別就業者及び通学者の割合



注) 不詳補完値による。

表 1-3 市町村別、従業員・通学地別就業者及び通学者数

府・市町村	実数 (人)										割合 (%)				
	総数 (夜間人口)	従業員も通学も していない	自市区町村で 従業員・通学		他市区町村で 従業員・通学		府内	他県	従業員も通 学もして いない	自市区町 村で従 業・通学		自市区町 村で従 業・通学		他県	
			自宅	自宅外	自宅	自宅外				自宅	自宅外	自宅	自宅外		
大阪府	8,837,685	3,401,260	2,502,011	336,344	2,165,667	2,934,414	2,607,839	326,575	38.5	28.3	3.8	24.5	33.2	29.5	3.7
大阪市	2,752,412	1,031,656	735,291	121,374	613,917	985,465	890,554	94,911	37.5	26.7	4.4	22.3	35.8	32.4	3.4
堺市	826,161	325,758	226,002	28,471	197,531	274,401	259,669	14,702	39.4	27.4	3.4	23.9	33.2	31.4	1.8
岸和田市	190,658	75,925	59,401	7,138	52,263	55,332	52,169	3,163	39.8	31.2	3.7	27.4	29.0	27.4	1.7
豊中市	401,558	153,063	117,242	14,562	102,680	131,253	109,794	21,459	38.1	29.2	3.6	25.6	32.7	27.3	5.3
池田市	104,993	39,300	28,750	3,821	24,929	36,943	28,412	8,531	37.4	27.4	3.6	23.7	35.2	27.1	8.1
吹田市	385,567	137,982	113,784	12,288	101,496	133,801	116,491	17,310	35.8	29.5	3.2	26.3	34.7	30.2	4.5
泉大津市	74,412	27,506	18,824	2,432	16,392	28,082	26,742	1,340	37.0	25.3	3.3	22.0	37.7	35.9	1.8
高槻市	352,698	142,230	108,924	10,574	98,350	101,544	74,668	26,876	40.3	30.9	3.0	27.9	28.8	21.2	7.6
貝塚市	84,443	31,809	24,377	3,087	21,290	28,257	26,886	1,371	37.7	28.9	3.7	25.2	33.5	31.8	1.6
守口市	143,096	56,073	36,821	5,939	30,882	50,202	46,111	4,091	39.2	25.7	4.2	21.6	35.1	32.2	2.9
枚方市	397,289	158,248	126,285	11,795	114,490	112,756	83,069	29,687	39.8	31.8	3.0	28.8	28.4	20.9	7.5
茨木市	287,730	105,144	90,101	9,182	80,919	92,485	75,548	16,937	36.5	31.3	3.2	28.1	32.1	26.3	5.9
八尾市	264,642	104,775	85,124	9,741	75,383	74,743	68,144	6,599	39.6	32.2	3.7	28.5	28.2	25.7	2.5
泉佐野市	100,131	36,156	34,621	4,140	30,481	29,354	26,745	2,609	36.1	34.6	4.1	30.4	29.3	26.7	2.6
富田林市	108,699	43,596	28,887	3,778	25,109	36,216	34,145	2,071	40.1	26.6	3.5	23.1	33.3	31.4	1.9
寝屋川市	229,733	92,998	62,129	8,170	53,959	74,606	66,688	7,918	40.5	27.0	3.6	23.5	32.5	29.0	3.4
河内長野市	101,692	45,043	25,184	3,376	21,808	31,465	29,307	2,158	44.3	24.8	3.3	21.4	30.9	28.8	2.1
松原市	117,641	47,975	31,745	4,371	27,374	37,921	35,815	2,106	40.8	27.0	3.7	23.3	32.2	30.4	1.8
大東市	119,367	44,439	34,588	4,049	30,539	40,340	36,739	3,601	37.2	29.0	3.4	25.6	33.8	30.8	3.0
和泉市	184,495	68,796	53,853	6,394	47,459	61,846	58,548	3,298	37.3	29.2	3.5	25.7	33.5	31.7	1.8
箕面市	136,868	50,790	38,373	5,123	33,250	47,705	41,224	6,481	37.1	28.0	3.7	24.3	34.9	30.1	4.7
柏原市	68,775	25,920	18,547	2,557	15,990	24,308	21,971	2,337	37.7	27.0	3.7	23.2	35.3	31.9	3.4
羽曳野市	108,736	43,563	27,617	4,231	23,386	37,556	35,300	2,256	40.1	25.4	3.9	21.5	34.5	32.5	2.1
門真市	119,764	46,934	33,450	4,571	28,879	39,380	36,318	3,062	39.2	27.9	3.8	24.1	32.9	30.3	2.6
摂津市	87,456	31,434	25,400	3,304	22,096	30,622	27,104	3,518	35.9	29.0	3.8	25.3	35.0	31.0	4.0
高石市	55,635	21,902	12,483	1,733	10,750	21,250	20,065	1,185	39.4	22.4	3.1	19.3	38.2	36.1	2.1
藤井寺市	63,688	24,664	15,067	2,282	12,785	23,957	22,512	1,445	38.7	23.7	3.6	20.1	37.6	35.3	2.3
東大阪市	493,940	195,013	177,786	20,452	157,334	121,141	107,638	13,503	39.5	36.0	4.1	31.9	24.5	21.8	2.7
泉南市	60,102	25,721	16,353	2,188	14,165	18,028	16,288	1,740	42.8	27.2	3.6	23.6	30.0	27.1	2.9
四條畷市	55,177	20,497	12,855	2,076	10,779	21,825	18,929	2,896	37.1	23.3	3.8	19.5	39.6	34.3	5.2
交野市	75,033	29,355	17,061	2,428	14,633	28,617	24,767	3,850	39.1	22.7	3.2	19.5	38.1	33.0	5.1
大阪狭山市	58,435	23,804	13,477	1,798	11,679	21,154	20,117	1,037	40.7	23.1	3.1	20.0	36.2	34.4	1.8
阪南市	51,254	21,887	12,234	1,753	10,481	17,133	15,084	2,049	42.7	23.9	3.4	20.4	33.4	29.4	4.0
島本町	30,927	11,942	6,433	819	5,614	12,552	8,122	4,430	38.6	20.8	2.6	18.2	40.6	26.3	14.3
豊能町	18,279	8,966	3,030	837	2,193	6,283	4,238	1,785	49.1	16.6	4.6	12.0	34.4	24.6	9.8
能勢町	9,079	3,747	2,939	865	2,074	2,393	1,237	1,156	41.3	32.4	9.5	22.8	26.4	13.6	12.7
忠岡町	16,567	6,735	3,399	543	2,856	6,433	6,208	225	40.7	20.5	3.3	17.2	38.8	37.5	1.4
熊取町	43,763	16,892	10,525	1,514	9,011	16,346	15,361	985	38.6	24.0	3.5	20.6	37.4	35.1	2.3
田尻町	8,434	2,924	2,273	312	1,961	3,237	3,053	184	34.7	27.0	3.7	23.3	38.4	36.2	2.2
岬町	14,741	7,139	3,098	543	2,555	4,504	3,552	952	48.4	21.0	3.7	17.3	30.6	24.1	6.5
太子町	13,009	4,799	2,798	589	2,209	5,412	5,033	379	36.9	21.5	4.5	17.0	41.6	38.7	2.9
河南町	15,697	5,829	3,964	890	3,074	5,904	5,594	310	37.1	25.3	5.7	19.6	37.6	35.6	2.0
千早赤阪村	4,909	2,331	916	254	662	1,662	1,590	72	47.5	18.7	5.2	13.5	33.9	32.4	1.5

注) 不詳補充値による。

## 2 流入・流出人口

### 34.4万人の流入超過 流入人口、流出人口とも兵庫県が最も多い

就業者及び通学者の他都道府県から大阪府への流入人口は60万2,402人となっており、兵庫県から30万9,704人(総数の51.4%)が最も多く、次いで奈良県から13万7,932人、京都府から8万9,443人、和歌山県から2万5,842人、滋賀県から2万451人となっている。

一方、大阪府から他都道府県への流出人口は25万7,988人となっており、兵庫県へ10万6,051人(総数の41.1%)が最も多く、次いで京都府へ8万6,787人(同33.6%)、奈良県へ2万7,627人、和歌山県へ1万2,974人、滋賀県へ1万663人となっている。

表 2-1 府県別流入・流出人口の推移

都道府県		実 数 (人)		割 合 (%)		増 減 数(人)
		平成27年	令和2年	平成27年	令和2年	平成27年と 令和2年の差
大阪府への流入人口	総 数	667,941	602,402	100.0	100.0	△ 65,539
	滋賀県 から	22,827	20,451	3.4	3.4	△ 2,376
	京都府 から	96,689	89,443	14.5	14.8	△ 7,246
	兵庫県 から	333,006	309,704	49.9	51.4	△ 23,302
	奈良県 から	154,708	137,932	23.2	22.9	△ 16,776
	和歌山県 から	29,129	25,842	4.4	4.3	△ 3,287
	近畿以外 から	31,582	19,030	4.7	3.2	△ 12,552
大阪府からの流出人口	総 数	283,107	257,988	100.0	100.0	△ 25,119
	滋賀県 へ	11,187	10,663	4.0	4.1	△ 524
	京都府 へ	90,146	86,787	31.8	33.6	△ 3,359
	兵庫県 へ	110,863	106,051	39.2	41.1	△ 4,812
	奈良県 へ	29,388	27,627	10.4	10.7	△ 1,761
	和歌山県 へ	13,504	12,974	4.8	5.0	△ 530
	近畿以外 へ	28,019	13,886	9.9	5.4	△ 14,133

注) 就業者は15歳以上を集計、通学者は15歳未満を含めて集計

図 2-1 府県別流入・流出人口の割合

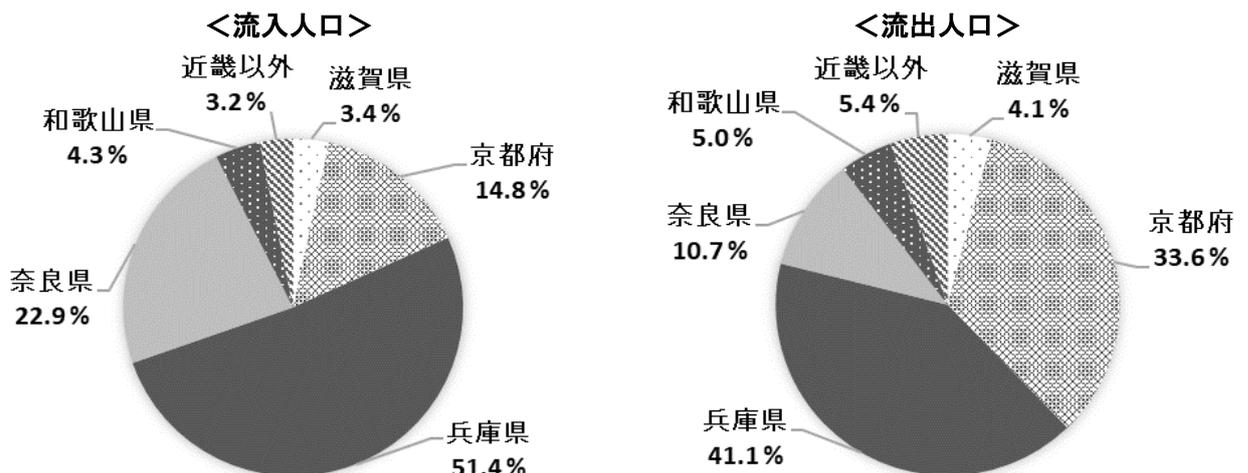
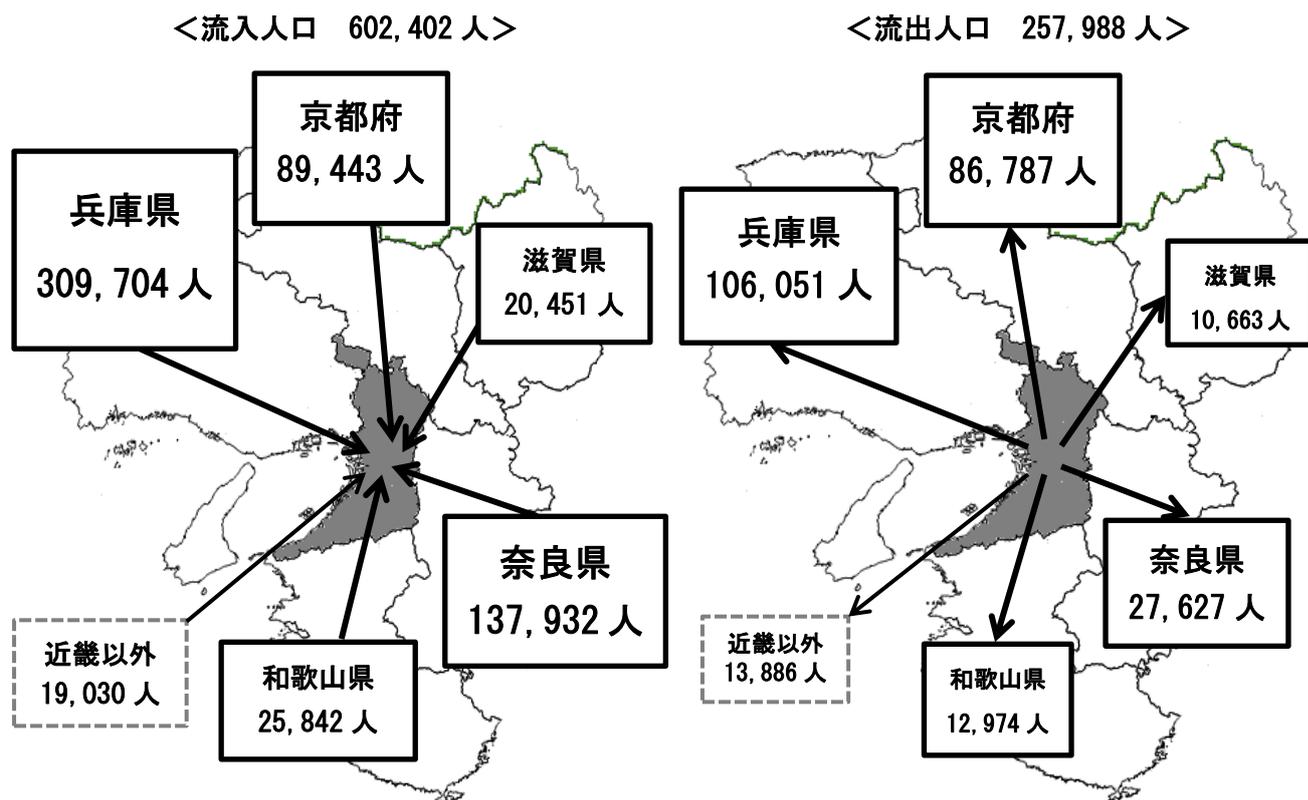


図 2-2 府県別流入・流出人口



注) 就業者は 15 歳以上を集計、通学者は 15 歳未満を含めて集計

## 「通学者 - 京都府」のみ流出超過

流入人口を就業者・通学者別にみると、就業者、通学者とも兵庫県が最も多い(28万4,629人、2万5,075人)。

一方、流出人口は、就業者は兵庫県(9万2,377人)が、通学者は京都府(1万9,523人)が、それぞれ最も多い。

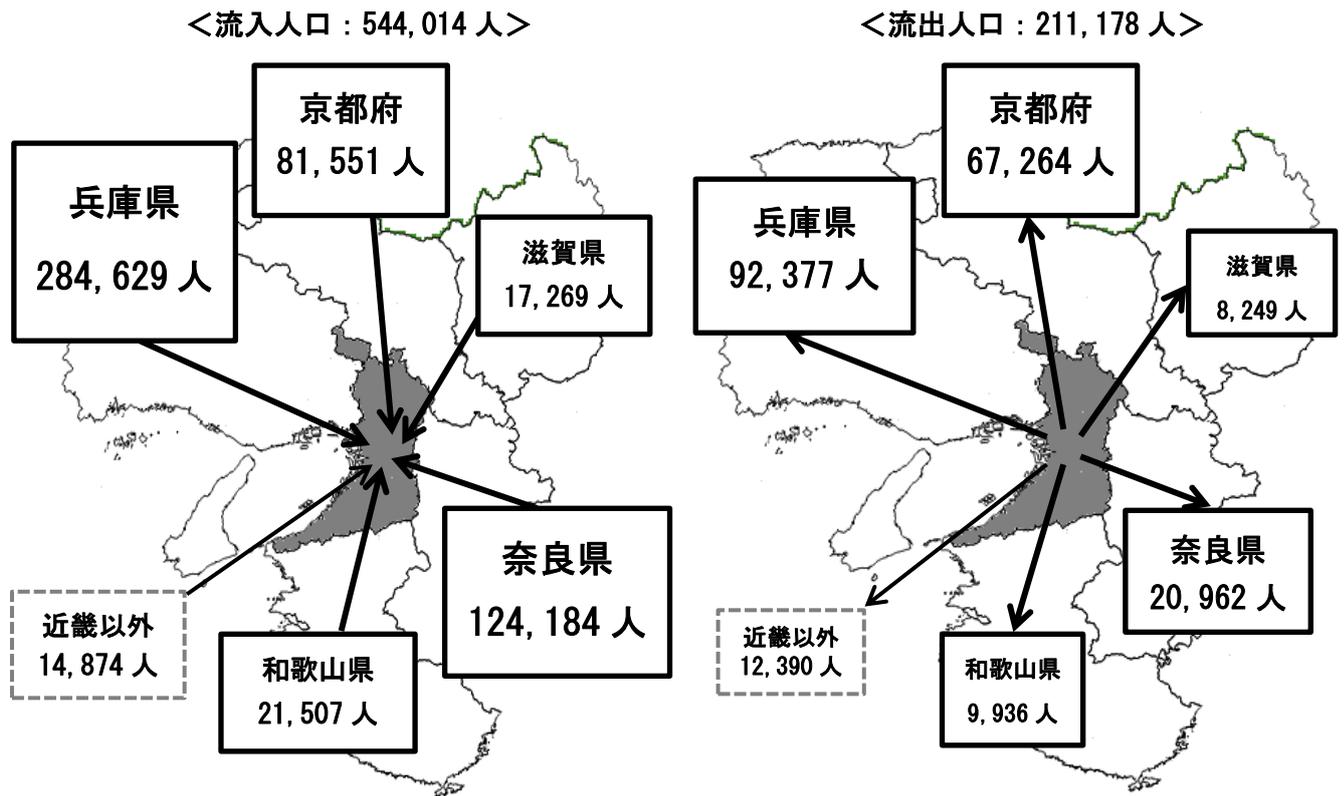
なお、京都府への通学者を除き、流入人口が流出人口を上回っている。

表 2-2 就業者・通学者別、府県別流入・流出人口

都道府県	総 数 (人)			就 業 者 (人)			通 学 者 (人)			
	平成27年	令和2年	平成27年と 令和2年の差	平成27年	令和2年	平成27年と 令和2年の差	平成27年	令和2年	平成27年と 令和2年の差	
流入人口	総 数	667,941	602,402	△ 65,539	591,717	544,014	△ 47,703	76,224	58,388	△ 17,836
	滋賀県から	22,827	20,451	△ 2,376	18,736	17,269	△ 1,467	4,091	3,182	△ 909
	京都府から	96,689	89,443	△ 7,246	86,171	81,551	△ 4,620	10,518	7,892	△ 2,626
	兵庫県から	333,006	309,704	△ 23,302	301,247	284,629	△ 16,618	31,759	25,075	△ 6,684
	奈良県から	154,708	137,932	△ 16,776	136,381	124,184	△ 12,197	18,327	13,748	△ 4,579
	和歌山県から	29,129	25,842	△ 3,287	23,495	21,507	△ 1,988	5,634	4,335	△ 1,299
	近畿以外から	31,582	19,030	△ 12,552	25,687	14,874	△ 10,813	5,895	4,156	△ 1,739
流出人口	総 数	283,107	257,988	△ 25,119	222,617	211,178	△ 11,439	60,490	46,810	△ 13,680
	滋賀県へ	11,187	10,663	△ 524	8,180	8,249	69	3,007	2,414	△ 593
	京都府へ	90,146	86,787	△ 3,359	65,757	67,264	1,507	24,389	19,523	△ 4,866
	兵庫県へ	110,863	106,051	△ 4,812	92,763	92,377	△ 386	18,100	13,674	△ 4,426
	奈良県へ	29,388	27,627	△ 1,761	21,152	20,962	△ 190	8,236	6,665	△ 1,571
	和歌山県へ	13,504	12,974	△ 530	9,935	9,936	1	3,569	3,038	△ 531
	近畿以外へ	28,019	13,886	△ 14,133	24,830	12,390	△ 12,440	3,189	1,496	△ 1,693
流入超過人口	総 数	384,834	344,414	△ 40,420	369,100	332,836	△ 36,264	15,734	11,578	△ 4,156
	滋賀県	11,640	9,788	△ 1,852	10,556	9,020	△ 1,536	1,084	768	△ 316
	京都府	6,543	2,656	△ 3,887	20,414	14,287	△ 6,127	△ 13,871	△ 11,631	2,240
	兵庫県	222,143	203,653	△ 18,490	208,484	192,252	△ 16,232	13,659	11,401	△ 2,258
	奈良県	125,320	110,305	△ 15,015	115,229	103,222	△ 12,007	10,091	7,083	△ 3,008
	和歌山県	15,625	12,868	△ 2,757	13,560	11,571	△ 1,989	2,065	1,297	△ 768
	近畿以外	3,563	5,144	1,581	857	2,484	1,627	2,706	2,660	△ 46

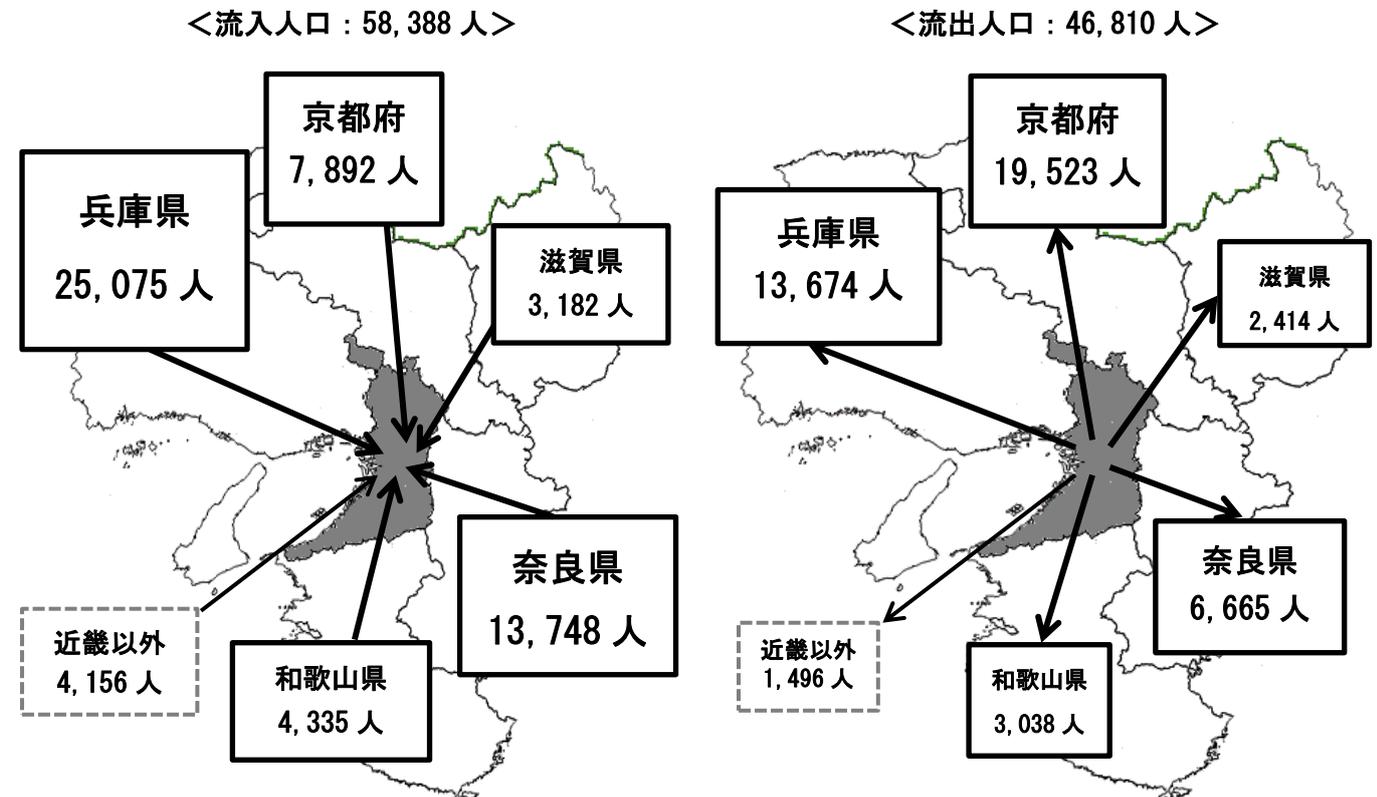
注) 就業者は15歳以上を集計、通学者は15歳未満を含めて集計

図 2-3 就業者の府県別流入・流出口



注) 15 歳以上を集計

図 2-4 通学者の府県別流入・流出口



注) 15 歳未満を含めて集計

### 3 昼間人口、昼夜間人口比率

昼間人口は922万人、夜間人口を39万人上回る

昼間人口は922万7,865人で東京都(1,675万1,563人)に次いで2位、夜間人口(常住地による総人口883万7,685人)と比較すると39万180人多い。

昼夜間人口比率は104.4で、同じく東京都(119.2)に次いで2位であるが、平成7年をピークに低下し続けている。

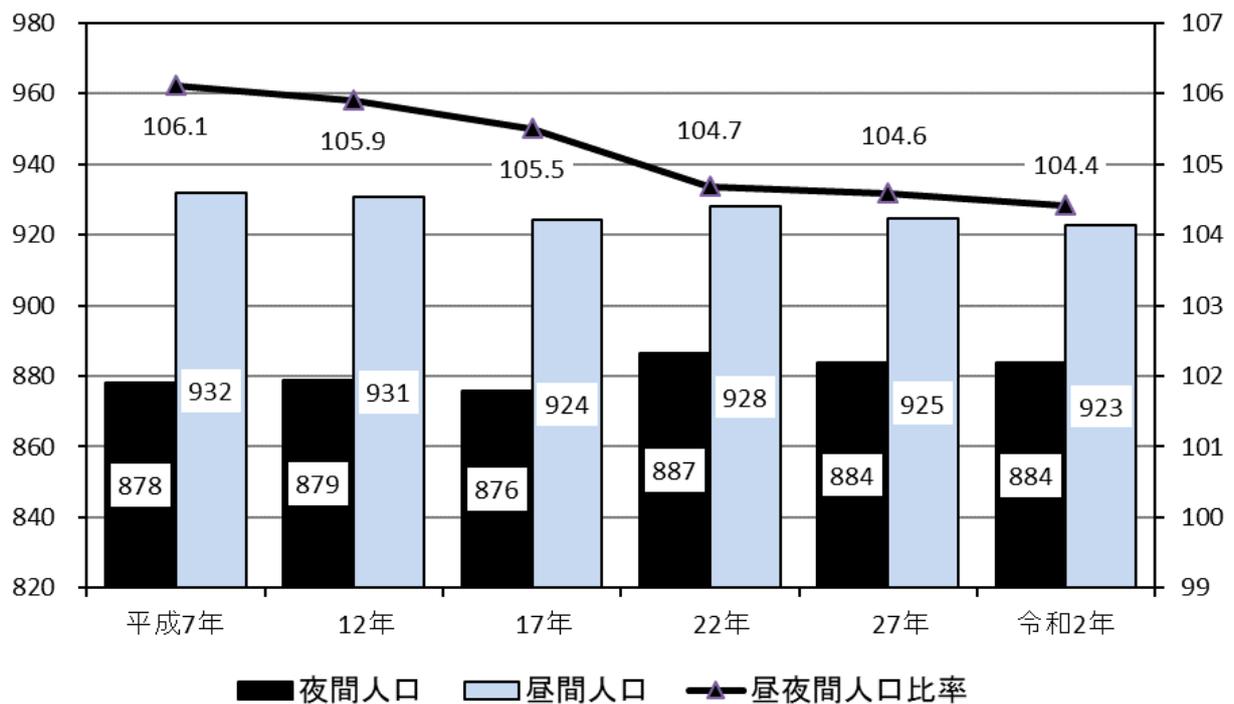
表 3-1 夜間人口、昼間人口、昼夜間人口比率の推移

区 分	夜間人口(人)	昼間人口(人)	昼夜間人口の差(人)	昼夜間人口比率
平成7年	8,781,295	9,318,312	537,017	106.1
12年	8,789,354	9,308,237	518,883	105.9
17年	8,759,033	9,241,468	482,435	105.5
22年	8,865,245	9,280,560	415,315	104.7
27年	8,839,469	9,245,167	405,698	104.6
令和2年	8,837,685	9,227,865	390,180	104.4

注) 平成27年及び令和2年は不詳補完値による。

図 3-1 夜間人口、昼間人口、昼夜間人口比率の推移

(万人)



注) 平成27年及び令和2年は不詳補完値による。

## 5市2町で昼間人口が夜間人口を上回る

昼間人口が夜間人口を上回っているのは、大阪市(昼夜間人口比率 132.5)、田尻町(同 113.7)、摂津市(同 111.3)、門真市(同 108.4)、泉佐野市(同 107.9)、東大阪市(同 102.7)及び河南町(同 100.2)である。

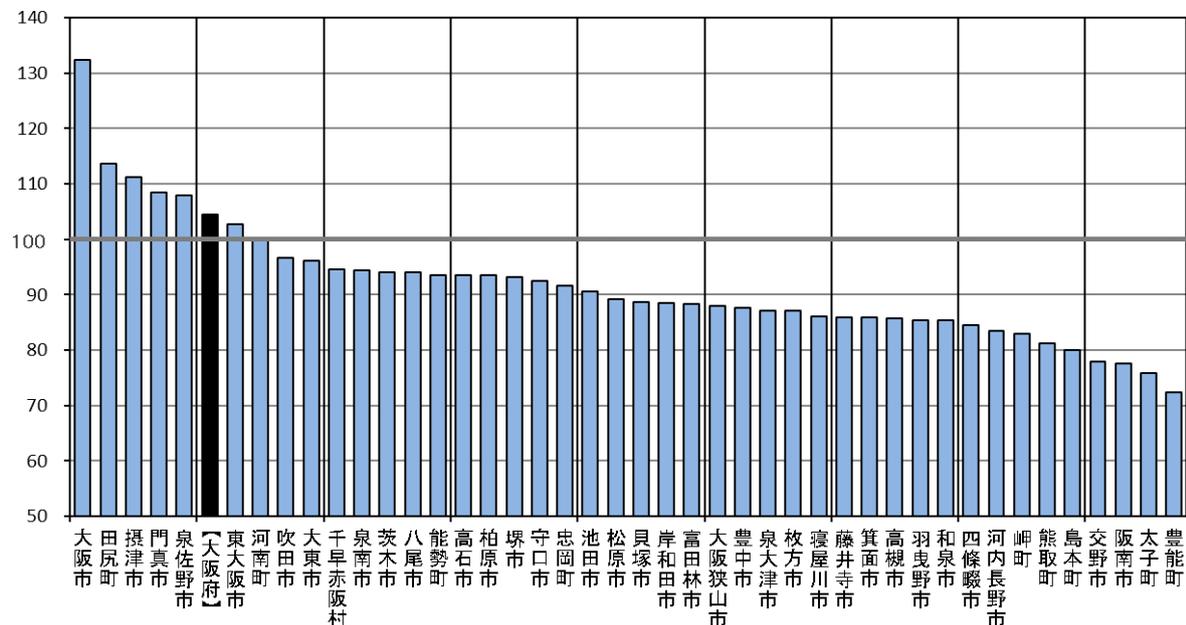
なお、政令指定都市及び東京都特別区部の昼夜間人口比率では、大阪市が1位、堺市が17位である。

表 3-2 市町村別夜間人口、昼間人口、昼夜間人口比率

市町村	夜間人口(人)	昼間人口(人)	昼夜間人口の差(人)	昼夜間人口比率
大阪府	8,837,685	9,227,865	390,180	104.4
大阪市	2,752,412	3,645,921	893,509	132.5
堺市	826,161	770,547	△ 55,614	93.3
岸和田市	190,658	168,869	△ 21,789	88.6
豊中市	401,558	351,933	△ 49,625	87.6
池田市	104,993	95,189	△ 9,804	90.7
吹田市	385,567	373,037	△ 12,530	96.8
泉大津市	74,412	64,854	△ 9,558	87.2
高槻市	352,698	302,566	△ 50,132	85.8
貝塚市	84,443	74,850	△ 9,593	88.6
守口市	143,096	132,451	△ 10,645	92.6
枚方市	397,289	346,010	△ 51,279	87.1
茨木市	287,730	270,585	△ 17,145	94.0
八尾市	264,642	248,815	△ 15,827	94.0
泉佐野市	100,131	108,036	7,905	107.9
富田林市	108,699	96,104	△ 12,595	88.4
寝屋川市	229,733	197,708	△ 32,025	86.1
河内長野市	101,692	84,978	△ 16,714	83.6
松原市	117,641	104,961	△ 12,680	89.2
大東市	119,367	114,685	△ 4,682	96.1
和泉市	184,495	157,544	△ 26,951	85.4
箕面市	136,868	117,584	△ 19,284	85.9
柏原市	68,775	64,286	△ 4,489	93.5
羽曳野市	108,736	92,895	△ 15,841	85.4
門真市	119,764	129,861	10,097	108.4
摂津市	87,456	97,349	9,893	111.3
高石市	55,635	52,025	△ 3,610	93.5
藤井寺市	63,688	54,735	△ 8,953	85.9
東大阪市	493,940	507,267	13,327	102.7
泉南市	60,102	56,714	△ 3,388	94.4
四條畷市	55,177	46,679	△ 8,498	84.6
交野市	75,033	58,432	△ 16,601	77.9
大阪狭山市	58,435	51,372	△ 7,063	87.9
阪南市	51,254	39,723	△ 11,531	77.5
島本町	30,927	24,722	△ 6,205	79.9
豊能町	18,279	13,246	△ 5,033	72.5
能勢町	9,079	8,494	△ 585	93.6
忠岡町	16,567	15,181	△ 1,386	91.6
熊取町	43,763	35,586	△ 8,177	81.3
田尻町	8,434	9,589	1,155	113.7
岬町	14,741	12,234	△ 2,507	83.0
太子町	13,009	9,868	△ 3,141	75.9
河南町	15,697	15,735	38	100.2
千早赤阪村	4,909	4,645	△ 264	94.6

注) 不詳補完値による。

図 3-2 市町村別昼夜間人口比率



注) 不詳補完値による。

## 4 常住地による就業者

### (1) 産業別

自市区町村で働く割合は「宿泊業、飲食サービス業」で、他市区町村で働く割合は「金融業、保険業」で、他県で働く割合は「金融業、保険業」で、それぞれ最も高い

常住地による15歳以上の就業者を従業地別にみると、「自市区町村で従業」は40.6%、「府内他市区町村で従業」は53.3%、「他県で従業」は6.2%となっている。

産業(常住地による15歳以上の就業者数(総数)における割合1%未満の産業及び「分類不能の産業」を除く。)別にみると、「自市区町村で従業」では「宿泊業、飲食サービス業」が50.3%と最も高く、次いで「医療、福祉」(48.5%)、「不動産業、物品賃貸業」(48.5%)と、「府内他市区町村で従業」では「金融業、保険業」が73.8%と最も高く、次いで「情報通信業」(69.3%)、「公務(他に分類されるものを除く)」(65.8%)と、「他県で従業」では「金融業、保険業」が8.5%と最も高く、次いで「教育、学習支援業」(8.0%)、「製造業」(7.9%)となっている。

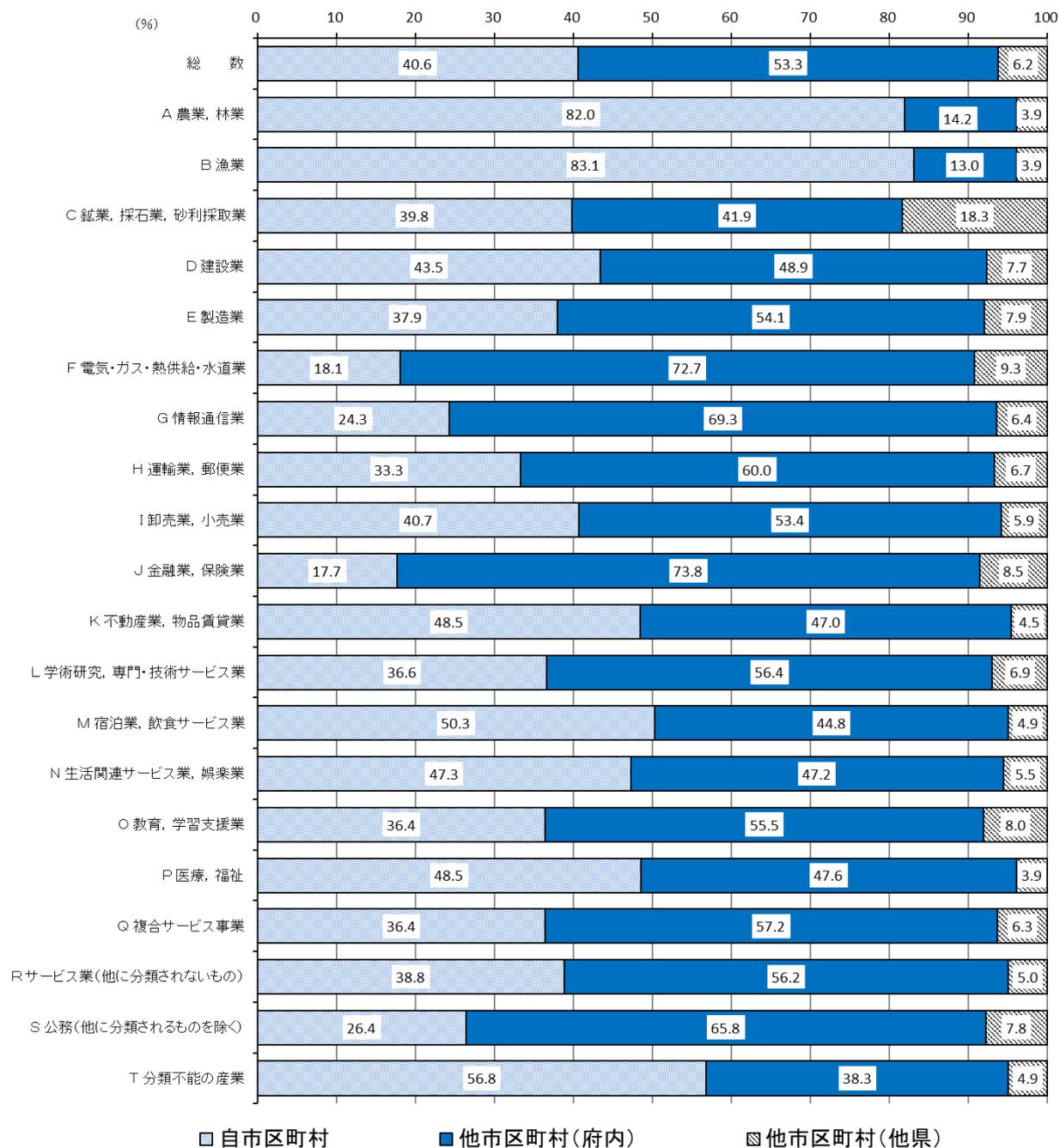
表4-1 産業(大分類)別、従業地別常住地による15歳以上就業者数

産業大分類	常住地による15歳以上就業者数 (人, %)									
	総数	割合	自市区町村で従業		他市区町村で従業				従業地「不詳」	
			構成比1)	府内で従業	構成比2)	他県で従業	構成比2)	従業市区町村「不詳・外国」		
総数	3,635,394	100.0	1,423,593	40.6	1,824,941	53.3	211,178	6.2	47,762	127,920
A 農業、林業	17,103	0.5	14,002	82.0	2,322	14.2	638	3.9	123	18
B 漁業	704	0.0	580	83.1	87	13.0	26	3.9	5	6
C 鉱業、採石業、砂利採取業	126	0.0	47	39.8	48	41.9	21	18.3	2	8
D 建設業	238,822	6.6	100,541	43.5	107,272	48.9	16,821	7.7	6,752	7,436
E 製造業	547,221	15.1	204,559	37.9	287,120	54.1	42,036	7.9	5,332	8,174
F 電気・ガス・熱供給・水道業	15,653	0.4	2,815	18.1	11,220	72.7	1,429	9.3	113	76
G 情報通信業	120,395	3.3	29,072	24.3	82,048	69.3	7,568	6.4	910	797
H 運輸業、郵便業	230,914	6.4	75,274	33.3	132,264	60.0	14,811	6.7	3,592	4,973
I 卸売業、小売業	606,924	16.7	242,768	40.7	312,718	53.4	34,308	5.9	6,124	11,006
J 金融業、保険業	85,262	2.3	14,926	17.7	61,507	73.8	7,108	8.5	894	827
K 不動産業、物品賃貸業	107,793	3.0	50,909	48.5	48,316	47.0	4,654	4.5	1,173	2,741
L 学術研究、専門・技術サービス業	135,659	3.7	49,178	36.6	74,707	56.4	9,175	6.9	1,176	1,423
M 宿泊業、飲食サービス業	206,490	5.7	101,078	50.3	88,057	44.8	9,647	4.9	2,131	5,577
N 生活関連サービス業、娯楽業	120,865	3.3	55,665	47.3	54,394	47.2	6,393	5.5	1,339	3,074
O 教育、学習支援業	177,801	4.9	64,208	36.4	96,778	55.5	13,995	8.0	1,230	1,590
P 医療、福祉	500,680	13.8	239,495	48.5	231,257	47.6	18,795	3.9	3,828	7,305
Q 複合サービス事業	16,170	0.4	5,829	36.4	9,006	57.2	998	6.3	164	173
R サービス業(他に分類されないもの)	260,506	7.2	98,777	38.8	139,033	56.2	12,253	5.0	4,322	6,121
S 公務(他に分類されるものを除く)	93,334	2.6	24,533	26.4	60,739	65.8	7,173	7.8	452	437
T 分類不能の産業	152,972	4.2	49,337	56.8	26,048	38.3	3,329	4.9	8,100	66,158

1) 産業ごとの総数(従業地「不詳」を控除)における構成比

2) 産業ごとの総数(従業地「不詳」を控除)における「他市区町村で従業」の構成比を「府内で従業」及び「他県で従業」で按分

図 4-1 産業(大分類)別、従業地別常住地による 15 歳以上就業者の割合



## (2) 職業別

自市区町村で働く割合は「サービス職業従事者」で、他市区町村で働く割合は「保安職業従事者」で、他県で働く割合は「建設・採掘従事者」で、それぞれ最も高い

常住地による15歳以上の就業者を従業地別にみると、「自市区町村で従業」は40.6%、「府内他市区町村で従業」は53.3%、「他県で従業」は6.2%となっている。

職業(常住地による15歳以上の就業者数(総数)における割合1%未満の職業及び「分類不能の職業」を除く。)別にみると、「自市区町村で従業」では「サービス職業従事者」が54.1%と最も高く、次いで「運搬・清掃・包装等従事者」(51.1%)、「管理的職業従事者」(46.6%)と、「府内他市区町村で従業」では「保安職業従事者」が68.4%と最も高く、次いで「事務従事者」(62.0%)、「輸送・機械運転従事者」(60.4%)と、「他県で従業」では「建設・採掘従事者」が8.7%と最も高く、次いで「専門的・技術的職業従事者」(7.6%)、「販売従事者」(7.2%)となっている。

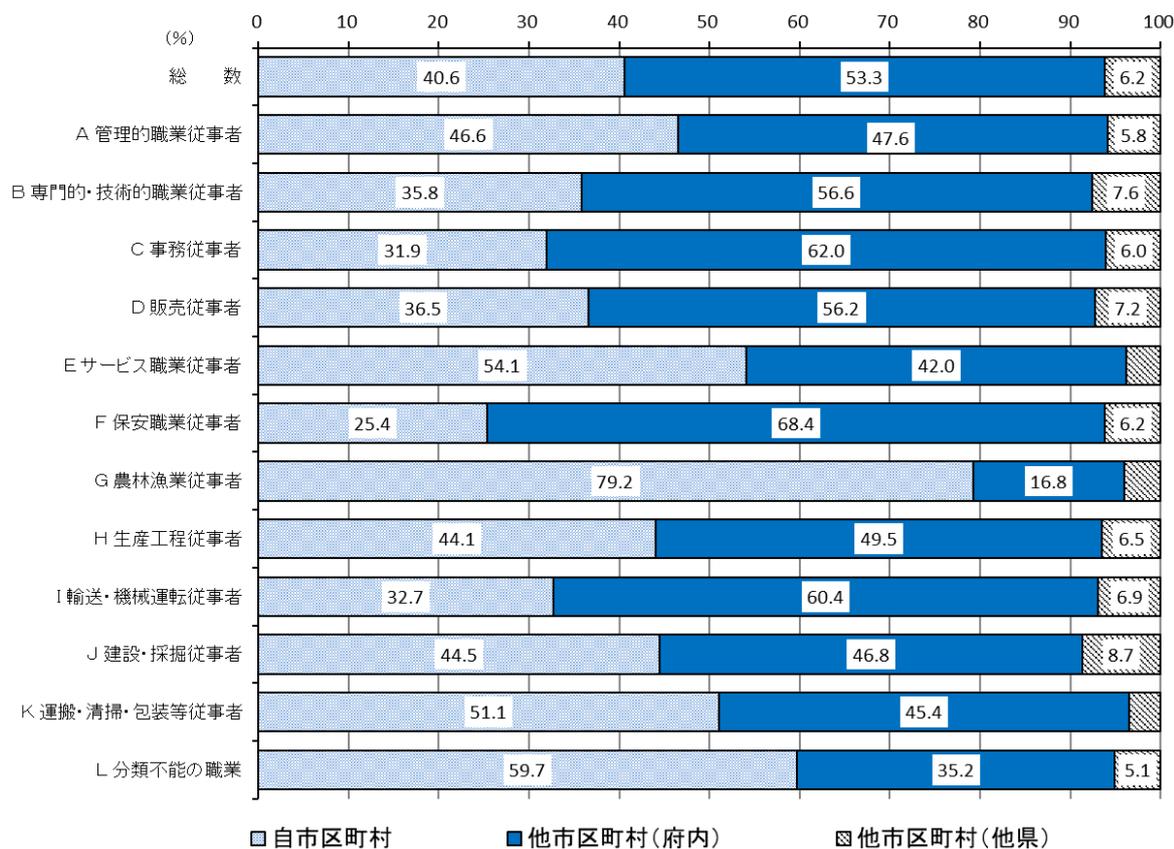
表 4-2 職業(大分類)別、従業地別常住地による15歳以上就業者数

職業大分類	常住地による15歳以上就業者数									
	総数	割合	自市区町村で従業		他市区町村で従業				従業市区町村「不詳・外国」	従業地「不詳」
			構成比1)	府内で従業	構成比2)	他県で従業	構成比2)			
総数	3,635,394	100.0	1,423,593	40.6	1,824,941	53.3	211,178	6.2	47,762	127,920
A 管理的職業従事者	74,021	2.0	33,755	46.6	33,720	47.6	4,107	5.8	890	1,549
B 専門的・技術的職業従事者	652,292	17.9	231,477	35.8	361,262	56.6	48,666	7.6	4,713	6,174
C 事務従事者	773,977	21.3	244,939	31.9	469,607	62.0	45,698	6.0	6,542	7,191
D 販売従事者	504,764	13.9	180,747	36.5	273,243	56.2	35,153	7.2	5,475	10,146
E サービス職業従事者	450,959	12.4	237,855	54.1	180,456	42.0	16,531	3.8	4,524	11,593
F 保安職業従事者	55,893	1.5	13,931	25.4	36,712	68.4	3,314	6.2	943	993
G 農林漁業従事者	18,399	0.5	14,515	79.2	2,967	16.8	704	4.0	141	72
H 生産工程従事者	420,105	11.6	181,423	44.1	199,221	49.5	26,157	6.5	5,034	8,270
I 輸送・機械運転従事者	117,097	3.2	37,221	32.7	66,664	60.4	7,621	6.9	2,312	3,279
J 建設・採掘従事者	140,597	3.9	60,090	44.5	58,815	46.8	10,912	8.7	5,239	5,541
K 運搬・清掃・包装等従事者	284,251	7.8	141,453	51.1	121,799	45.4	9,376	3.5	4,227	7,396
L 分類不能の職業	143,039	3.9	46,187	59.7	20,475	35.2	2,939	5.1	7,722	65,716

1) 職業ごとの総数(従業地「不詳」を控除)における構成比

2) 職業ごとの総数(従業地「不詳」を控除)における「他市区町村で従業」の構成比を「府内で従業」及び「他県で従業」で按分

図 4-2 職業(大分類)別、従業地別常住地による 15 歳以上就業者の割合



集計区分	集計内容	公表予定
人口速報集計	男女別人口及び世帯数	[公表済]
★ 人口等基本集計	人口、世帯、住居に関する結果 外国人、高齢者世帯、母子・父子世帯、親子の同居等に関する結果	[公表済]
★ 就業状態等基本集計	人口の労働力状態、夫婦、子どもがいる世帯等の産業・職業大分類別構成に関する結果	[公表済]
抽出詳細集計	就業者の産業・職業小分類別構成等に関する詳細な結果	令 4.12
★ 従業地・通学地による人口・就業状態等集計	従業地・通学地による人口の基本的構成及び就業者の産業・職業大分類別構成に関する結果	[公表済]
★ 移動人口の男女・年齢等集計	人口の転出入状況に関する結果	[公表済]
移動人口の就業状態等集計	移動人口の労働力状態、産業・職業大分類別構成に関する結果	[公表済]
小地域集計	★の集計に関する基本的な事項の町丁・字等別の結果	各集計区分の公表後順次



大阪府

大阪府総務部統計課 人口・労働グループ

〒559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16

大阪府咲洲庁舎（さきしまコスモタワー）19階

TEL 06-6941-0351（内線 2346）



統計に関する情報がてんこ盛り！

「大阪府の統計情報」

大阪府の統計情報

